

タワーレコード フリーマガジン『intoxicate』・LIQUIDROOM ebisu
共同企画制作イベント第2弾

koolhaus of Jazz with southern accent
2005年6月9日(木)開催決定!!

株式会社NMNL(本社:東京都品川区/代表取締役:伏谷博之)では、タワーレコードで配布しているフリーマガジン『intoxicate(イントキシケイト)』¹が企画制作するライブ・イベント「intoxicate」²のノウハウを活かし、LIQUIDROOM ebisuとの共同企画制作イベント「koolhaus Of Jazz with southern accent」をLIQUIDROOM ebisu(東京都渋谷区東3-16-6)にて開催いたします。

2004年のクリスマスにジャズをテーマに開催し、好評を博した「koolhaus Of Jazz」。その第2弾となる今回は、2005年5月2日に新作『南米のエリザベス・テラー』をリリースし、南方に新しい展開を試みる菊地成孔が率いる新バンド、**菊地成孔とpepe tormento azucarar**が、初となるライブを披露。そして、昨年9月に行われた来日公演が話題となり、最新作『コスチューム』も高い評価を得ている静かなる妖精、**ブランドン・ロス**が再び“コスチューム”バンドで出演するほか、DJとして、日本のクラブ・シーンを支え、世界的な活動を展開するUNITED FUTURE ORGANIZATIONの**矢部直**が登場します。

ジャズの新しい可能性を追求する、注目のアーティスト達の競演をお楽しみ下さい。

当日の取材をご希望される場合は、別紙のFAX返信用紙に必要事項をご記入の上、ご返信くださいますようお願い申し上げます。

1 フリーマガジン『intoxicate(イントキシケイト)』

現代音楽・クラシックを紹介するフリーマガジン。2004年8月に創刊51号を期に『musée(ミュゼ)』より『intoxicate』に誌名変更し、リニューアル。隔月(偶数月20日)刊。当初から国内では紹介される機会のなかった分野の音楽情報を掲載し、若い評論家、若いリスナーから熱烈的な支持を受け、今日に至る。現在では音楽以外の情報(映画、本、伝統芸能など)に加え、ユニークな連載記事(依孝太郎の“クラシックな人々”“四コマの鉄人 人コマゴマ”など)を掲載するなど、単なる情報誌という枠を超えて、読み物として楽しむ読者も多い。音楽を基本テーマとして、様々な話題を取り上げるという編集方針により、世代を超えた読者にアプローチしている。1999年にはECMというレーベルの30周年にあわせて、独自のイベントを企画、話題となりライブ・イベント『intoxicate』開催へと続く。

2 ライブ・イベント「intoxicate(イントキシケイト)」

イベントの総称「intoxicate」は、「...を酔わせる」「...を熱狂させる」という意味を持つ。タワーレコードのフリーマガジン『intoxicate』のコンセプトをそのまま具現化し、2001年12月からスタートしたイベント。イベントに登場するアーティストや音楽についても、『intoxicate』の編集方針に沿って、ジャンルやカテゴリー、有名無名にとらわれず、様々なキャスティング、セレクトを行なう。このイベントを通して、タワーレコードのユーザーに対し、既存の価値観では捉えにくい視点、既存の価値観では生まれにくい好奇心をかき立てる場を提供することにより、更なる音楽への興味・関心を促す。今後も更に発展させた形で年6回、隔月での開催を予定し、20代後半から40代後半をターゲットに、大胆な企画を行なっていく。



イベント詳細

名 称 : koolhaus of Jazz with southern accent

日 時 : 2005 年 6 月 9 日 (木)

19 : 00 / オープン 20:00 / スタート

場 所 : LIQUIDROOM ebisu

(東京都渋谷区東 3-16-6)

出演アーティスト : ブランドン・ロス “ コスチューム ” バンド

菊地成孔と pepe torment azucarar

矢部直 (DJ)

上記アーティストのプロフィールは別紙をご参照下さい。

チ ケ ッ ト : 前売 ¥ 5,500 (税込) 当日 ¥ 6,000 (税込)

別途ドリンクチャージが必要になります。

下記プレイガイドにて発売

・チケットぴあ (0570-02-9999 ・ P コード : 199-185)

・ローソンチケット (0570-06-3003 ・ L コード : 34729)

・イープラス (<http://eee.eplus.co.jp/>)

チケット発売日 : 2005 年 4 月 29 日 (金)

4 月 17 日 (日) 21:00 より <http://www.liquidroom.net/>にて先行予約開始

お 問 合 せ : LIQUIDROOM ebisu 03-5464-0800 www.liquidroom.net

主催/企画制作 : 株式会社 NMNL intoxicate、LIQUIDROOM ebisu

協 賛 : 株式会社コルグノパール楽器製造株式会社 / ヤマハ株式会社

協 力 : タワーレコード株式会社、株式会社イーストワークスエンタテインメント

『intoxicate』特設サイト : <http://intoxicate.jp/>

お問合せ

タワーレコード株式会社 経営企画室 コーポレートコミュニケーション 広報担当 : 真野

TEL : 03-3496-5009 FAX : 03-3496-5727 E-mail : press@tower.co.jp

〒150-0041 東京都渋谷区神南1-21-1 日本生命渋谷ビル9F

菊地成孔と pepe tormento azucarar



1963 年生まれ。音楽家、著述家。双子座の AB 型。85 年にサキソフォン奏者としてプロデビュー後、山下洋輔グループ、ティポグラフィカなどに在籍。現在、“Date course pentagon royal garden”、“Spank happy”という 2 つのバンドを主宰。2004 年「放蕩息子の帰還」を自ら宣言し、初のジャズ・リーダー・アルバム『Degustation a Jazz』を発表。「degustation = つまみ食い」というメソッドによるポスト・モダン・ジャズを世に問う。その発表にあわせ、ダブ・ミックス担当メンバーを擁するリーダー・バンド“菊地成孔とクインテッド・ライブ・ダブ”を結成。都内を中心にライブ活動を展開し、ソールドアウトが続出する。同年夏には、全国から

の要望に応えるべく京名阪公演を敢行。その後、再来を希望する声があまりに多く、2005 年春に東名阪ブルーノート・ツアーが決定している。2005 年 5 月に、ポスト・モダン・ジャズの可能性をさらに追求するセカンド・アルバム『南米のエリザベス・テラー』の発表を控え、“東京を最もよく象徴するトリック・スター”菊地成孔の期待は高まるばかり。今回出演するのは、これが初お披露目となるセカンド・アルバム仕様のニューバンド。その名を“菊地成孔と pepe tormento azucarar”とすること以外、現時点で詳細は非公開。

著述家としては、2003 年にエッセイ集『スペインの宇宙食』（小学館）、2004 年に『歌舞伎町のミッドナイト・フットボール』（小学館）、そして講師活動の最初の集大成と云う音楽理論書『官能と憂鬱を教えた学校』（河出書房新社）を上梓。2005 年 5 月には格闘技エッセイ『サイコロジカル・ボディ・ブルース解凍（仮）』（白夜書房）と大谷能生との共著の講義録『東京大学のアルバート・アイラー（上巻）』（メディア総合研究所）を発刊予定。現在タワーレコードの音楽情報サイト、bounce.com (<http://www.bounce.com/>) における CD の売上予想コラム「CD は株券ではない」のほか、『ファッションニュース』（流行通信社）、『UOMO』（集英社）などに連載を持つ。

後進の育成に熱心であることもよく知られ、私塾「ペンギン大学」でサックスと理論を教えるほか、2004 年からは映画美学校音楽美学講座主任講師を、2004 年 4 月からは東京大学教養学部非常勤講師を務める。さらに、2006 年新春公開映画『大停電の夜に』（源孝志監督作品/アスミックエース）をはじめ、菊地が音楽を担当する映画が 4 本待機中である。

<http://park10.wakwak.com/~kikuchic/contents.html>

< CD リリース情報 >



『南米のエリザベス・テラー』

菊地成孔

[ewe records EWCD-0104E]

2005/5/2 発売

ブランドン・ロス “ コスチューム ” バンド



ギタリスト、ヴォーカリスト、作曲、編曲家。今日のシカゴ派のアーティストの多くと同様に、70 年代ニューヨークのロフトジャズに多大な影響を受ける。75 年、18 歳のときに同じくステージに立つ側になり、90 年代以降、アレステッド・ディベロップメント、キップ・ハンランらとのコラボレーションで注目を集める。2004 年 9 月、カサンドラ・ウィルソンの来日公演（ブルーノート）でバンマスを務めた姿は記憶に新しい。2004 年 12 月、初のソロ・アルバム『コスチューム』を日本のレーベル（intoxicate records）から発表。松山晋也に「ドビュッシーの音楽的ビジョンをジャズ的に展開した音響彫刻」と評されるなど、多くの識者に改めて注目される。合わせて開催された来日公演で、生の声とギターを聴き、その禅的とさえ形容したくなる涼しいたたずまいに触れ、やみつきになったファンは数知れない。多くの待望の声に答え、7 ヶ月という短いインターバルで再来日が決定。日本のステージに再び、あのドレッドのシルエットが降り立つ。

<CD リリース情報>



『コスチューム』

Brandon Ross

[intoxicate records INTX-1004]

2004/12/8 発売